

ADDRESS HUMAN

都市の状況



銀座とは高級ブランド街として、世界的にも有数な街である。複数の路線の電車に、高速道路、南東には東京湾があり船舶と、交通インフラが発達している。交通インフラにより銀座という街が成り立っている。銀座だけでなく、都市においても言えることである。

現代の交通インフラ



現代の交通インフラとして、電車・自動車・飛行機・船舶である。遠方への移動手段として便利である。

交通インフラの縮小

未来の交通インフラ



軽自動車も乗用車よりも早いスピードで増加している。軽乗用車増加も交通インフラに対しての手軽さ小型化が求められている。

現在は映像解析技術にとどまるが、軽乗用車増加もあり小型のドローンが交通インフラに変わってくる。

未来の交通インフラによる都市の変化 衣食住の低下～シェアリングとIoT化

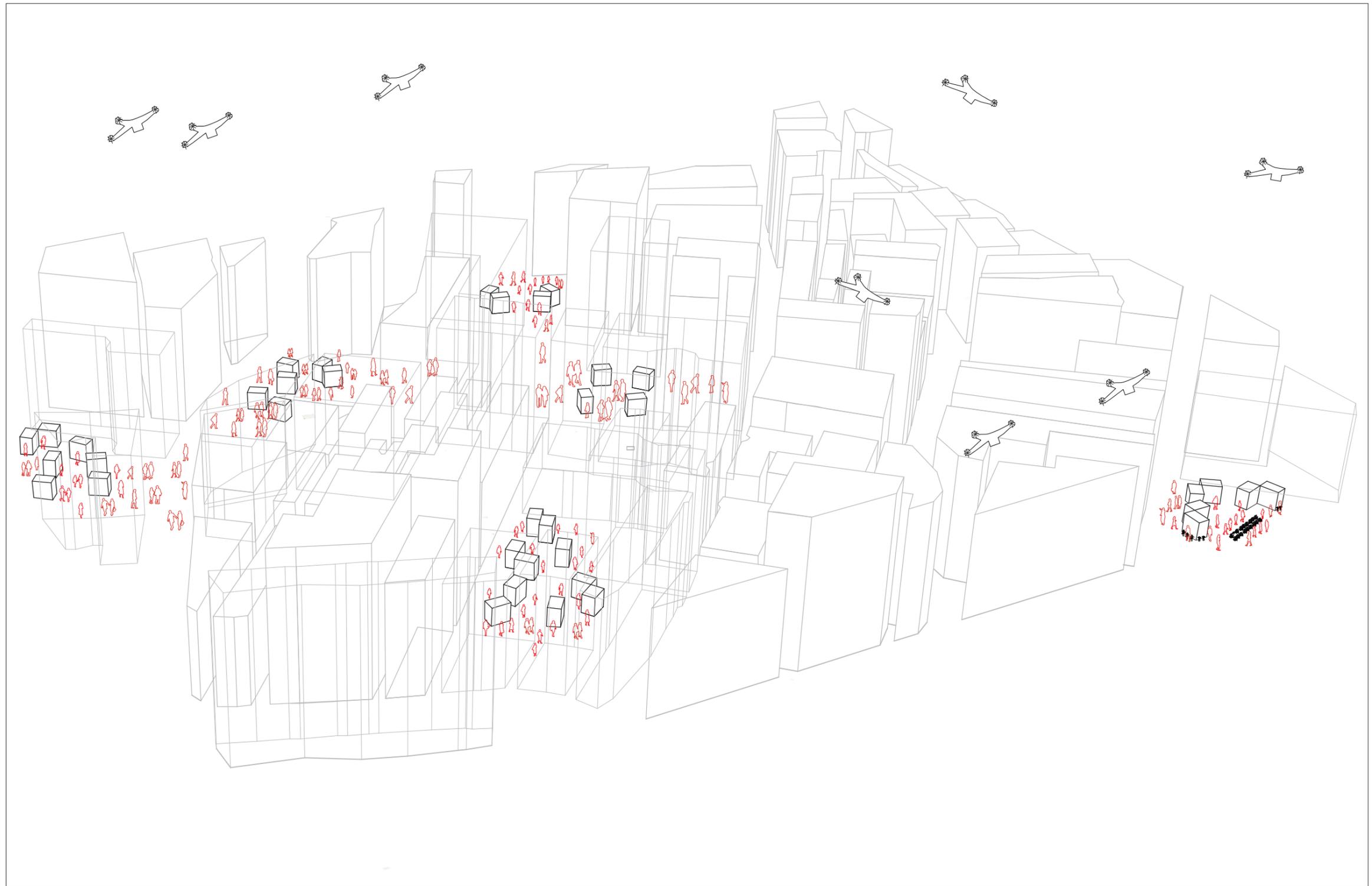


ドローンの台頭により衣食住のコストが下がる。
→1人が持つモノの量の低下
→IoT化されたモノを必要な時に使う。シェアリング。
→ドローンがモノを人間の位置情報に運ぶ。

住所の解体～アドレス化



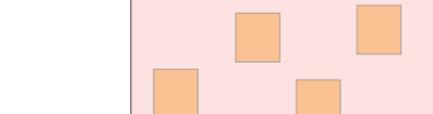
ドローンによって運ばれるモノは住所ではなく、人間の位置情報・アドレスに運ばれる。人もドローンによって運ばれる。建築=住所→人(建築)=アドレスとなる。アドレス化したモノは人へ運ばれ、ある時はアドレス化した人は、モノの場所へと運ばれる。未来の交通インフラは建築の概念を変えていく。



人のアドレス化による空間の成り立ち



アドレス化の条件として、人間の体にマイクロチップを入れアドレス化する。



単身者マンションや核家族の1人部屋など、人がいない状態でも専有空間となる。



人がアドレス化する。人がモノ(空間)にがいると専有空間。人が空間にいないと共有空間となる。

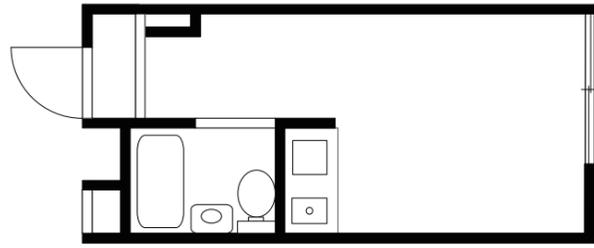


ドローンによってモノが運ばれ、人は必要な時に使用したい場所でモノを使用し、シェアリングしていく。

ADDRESS HUMAN

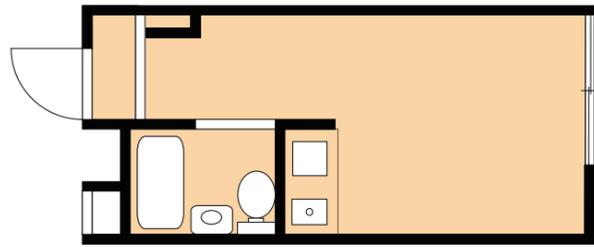
建築の解体～モノのシェアリング

単身者住宅・銀座の街(都市の基盤)にあるビルディングタイプを選定する。

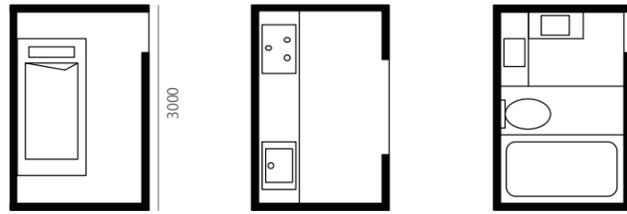


空間の分類・専有空間と共有空間に分類する。

■ 専有空間
■ 共有空間



空間の縮小化・ドローンでの運搬、シェアリングをしやすいため空間を2000×300のユニットで統一する。



2000

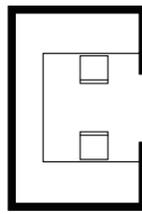
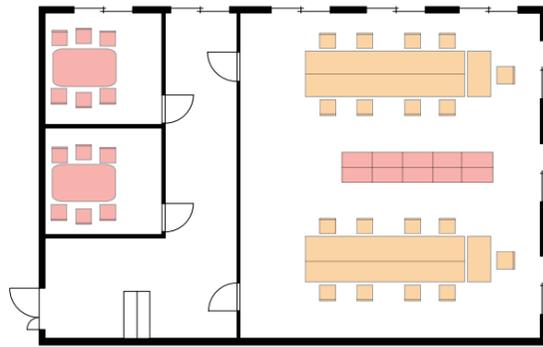
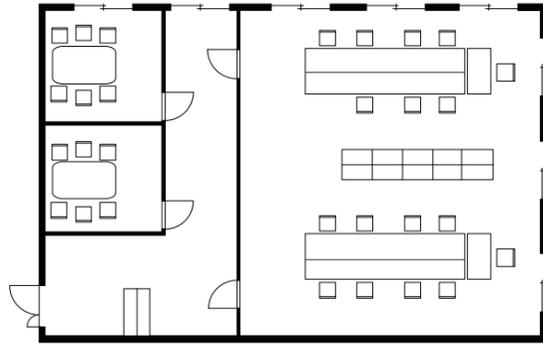
3000

寝室

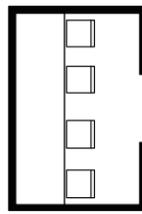
キッチン

ユニットバス

オフィス

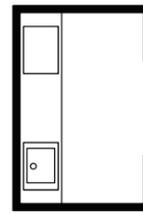
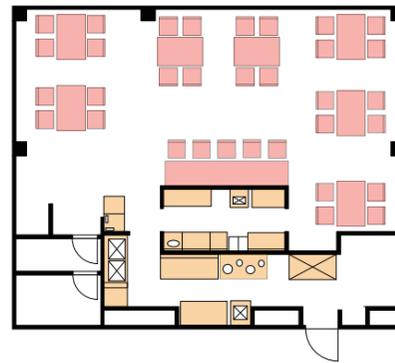
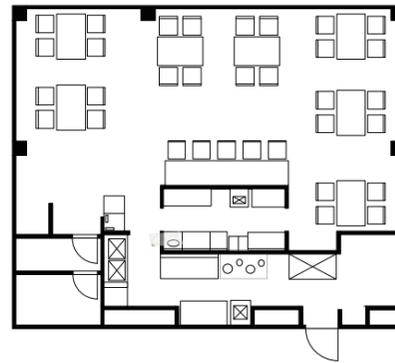


デスク

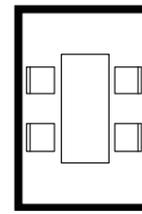


会議室デスク

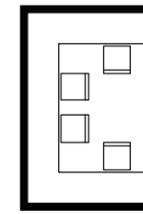
飲食店



キッチン

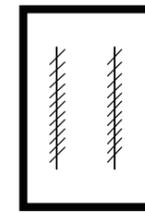
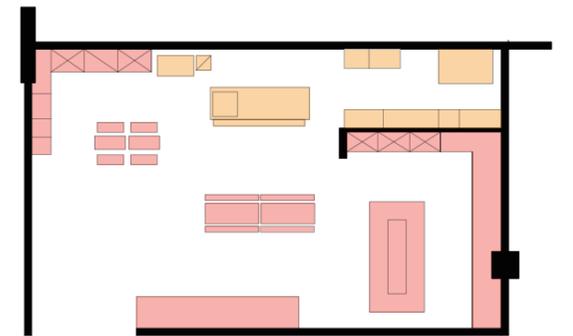
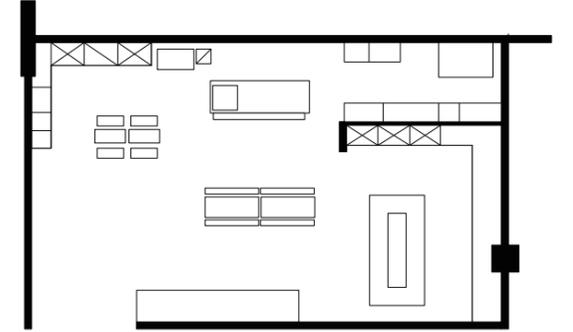


4人テーブル

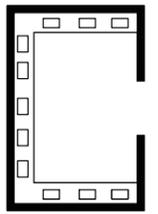


カウンターテーブル

雑貨店



ハンガー



商品棚

